(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第6865629号
(P6865629)
(45)発行日　令和3年4月28日(2021.4.28)　(24)登録日　令和3年4月8日(2021.4.8)

(51)Int.Cl.　F I
A61B 5/00 (2006.01)　A61B 5/00 102B
A61B 5/332 (2021.01)　A61B 5/04 310H
A61B 5/24 (2021.01)　A61B 5/04 R

請求項の数 13　(全 22 頁)

(21)出願番号　特願2017-91117(P2017-91117)
(22)出願日　平成29年5月1日(2017.5.1)
(65)公開番号　特開2018-187023(P2018-187023A)
(43)公開日　平成30年11月29日(2018.11.29)
審査請求日　令和2年1月8日(2020.1.8)

(73)特許権者　000230962
日本光電工業株式会社
東京都新宿区西落合１丁目３１番４号
(74)代理人　100094525
弁理士　土井　健二
(74)代理人　100094514
弁理士　林　恒徳
(72)発明者　松村　文幸
東京都新宿区西落合１丁目３１番４号　日本光電工業株式会社内
(72)発明者　今野　徳人
東京都新宿区西落合１丁目３１番４号　日本光電工業株式会社内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】生体情報送信システム、生体情報検出センサ、情報処理装置、及び、生体情報送信方法

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
少なくとも１つの生体情報検出センサと、情報処理装置と、を備えた生体情報送信システムにおいて、
前記情報処理装置は、
前記生体情報検出センサのセンサ識別情報を取得するセンサ識別情報取得部と、
生体の生体識別情報を取得する生体識別情報取得部と、
前記センサ識別情報取得部が取得したセンサ識別情報と前記生体識別情報取得部が取得した前記生体の生体識別情報とを紐付けた第１紐付け情報を生成する制御部と、
前記第１紐付け情報を前記生体情報検出センサに送信する第１送信部と、を備え、
前記生体情報検出センサは、
生体の生体情報を検出する生体情報検出部と、
自センサのセンサ識別情報が記憶された記憶部と、
前記情報処理装置の前記第１送信部が送信した前記第１紐付け情報を受信する受信部と、
前記受信部が前記第１紐付け情報を受信した場合、前記受信部が受信した前記第１紐付け情報が、前記記憶部に記憶された前記自センサのセンサ識別情報を含むか否かを判定する判定部と、
前記判定部が、前記受信部が受信した前記第１紐付け情報が、前記記憶部に記憶された前記自センサのセンサ識別情報を含むと判定した場合、前記受信した第１紐付け情報中の

生体識別情報と前記生体情報検出部が検出した前記生体の生体情報とを紐付けた第２紐付け情報を自センサ外部に送信する第２送信部と、を備える生体情報送信システム。

【請求項２】

前記第２紐付け情報は、前記受信した第１紐付け情報中の生体識別情報と前記自センサのセンサ識別情報と前記生体情報検出部が検出した前記生体の生体情報とを紐付けた紐付け情報である請求項１に記載の生体情報送信システム。

【請求項３】

前記生体情報検出センサは、

前記記憶部に記憶された前記自センサのセンサ識別情報と同じセンサ識別情報が記録されたセンサ識別情報記録部をさらに備え、

前記センサ識別情報取得部は、前記センサ識別情報記録部から前記生体情報検出センサのセンサ識別情報を取得する請求項１又は２に記載の生体情報送信システム。

【請求項４】

前記自センサ外部は、前記第２送信部が送信する前記第２紐付け情報を表示する表示装置、又は、前記第２送信部が送信する前記第２紐付け情報を前記表示装置に転送する転送装置である請求項１又は２に記載の生体情報送信システム。

【請求項５】

前記情報処理装置は、前記センサ識別情報及び前記生体識別情報を取得した医療従事者の識別情報を取得する医療従事者識別情報取得部をさらに備え、

前記第１紐付け情報は、前記センサ識別情報取得部が取得したセンサ識別情報と前記生体識別情報取得部が取得した前記生体の生体識別情報と前記医療従事者識別情報取得部が取得した前記医療従事者識別情報とを紐付けた紐付け情報であり、

前記第２紐付け情報は、前記受信した第１紐付け情報中の生体識別情報及び医療従事者識別情報と前記生体情報検出部が検出した前記生体の生体情報とを紐付けた紐付け情報である請求項１又は２に記載の生体情報送信システム。

【請求項６】

生体の生体情報を検出する生体情報検出部と、

自センサのセンサ識別情報が記憶された記憶部と、

生体情報検出センサのセンサ識別情報と前記生体の生体識別情報を取得した外部装置が送信した前記センサ識別情報と前記生体識別情報とを紐付けた第１紐付け情報を受信する受信部と、

前記受信部が前記第１紐付け情報を受信した場合、前記受信部が受信した前記第１紐付け情報が、前記記憶部に記憶された前記自センサのセンサ識別情報を含むか否かを判定する判定部と、

前記判定部が、前記受信部が受信した前記第１紐付け情報が、前記記憶部に記憶された前記自センサのセンサ識別情報を含むと判定した場合、前記受信した第１紐付け情報中の生体識別情報と前記生体情報検出部が検出した前記生体の生体情報とを紐付けた第２紐付け情報を自センサ外部に送信する第２送信部と、を備える生体情報検出センサ。

【請求項７】

前記記憶部に記憶された前記自センサのセンサ識別情報と同じセンサ識別情報が記録されたセンサ識別情報記録部をさらに備える請求項６に記載の生体情報検出センサ。

【請求項８】

生体に装着された生体情報検出センサのセンサ識別情報を取得するセンサ識別情報取得部と、

前記生体の生体識別情報を取得する生体識別情報取得部と、

前記センサ識別情報取得部が取得したセンサ識別情報と前記生体識別情報取得部が取得した前記生体の生体識別情報とを紐付けた第１紐付け情報を生成する制御部と、

前記第１紐付け情報を前記生体情報検出センサに送信する第１送信部と、を備え、

前記生体情報検出センサに、前記第１紐付け情報を受信した場合、前記第１紐付け情報が前記記憶部に記憶された前記自センサのセンサ識別情報を含むか否かを判定させ、受信

した前記第１紐付け情報が記憶部に記憶された自センサのセンサ識別情報を含むと判定した場合、前記受信した第１紐付け情報中の生体識別情報と前記生体情報検出部が検出した前記生体の生体情報とを紐付けた第２紐付け情報を自センサ外部に送信させる情報処理装置。

【請求項９】

情報処理装置が、生体に装着された生体情報検出センサのセンサ識別情報と前記生体の生体識別情報とを取得し、前記取得したセンサ識別情報と生体識別情報とを紐付けた第１紐付け情報を生成し、前記第１紐付け情報を送信し、

前記生体情報検出センサが、前記情報処理装置が送信する前記第１紐付け情報を受信した場合、前記受信した前記第１紐付け情報が自センサのセンサ識別情報を含むか否かを判定し、前記受信した前記第１紐付け情報が自センサのセンサ識別情報を含むと判定した場合、前記受信した第１紐付け情報中の生体識別情報と前記生体情報検出センサが検出した生体情報とを紐付けた第２紐付け情報を自センサ外部に送信する生体情報送信方法。

【請求項１０】

前記自センサ外部は、前記情報処理装置である、請求項１に記載の生体情報送信システム。

【請求項１１】

前記判定部が、前記受信部が受信した前記第１紐付け情報が、前記記憶部に記憶された前記自センサのセンサ識別情報を含むと判定した場合、前記第２送信部が、通信コネクションを確立し、前記第２紐付け情報を送信する、請求項１または１０に記載の生体情報送信システム。

【請求項１２】

前記センサ識別情報取得部は、前記生体に装着された前記生体情報検出センサのセンサ識別情報を取得する、請求項１に記載の生体情報送信システム。

【請求項１３】

前記外部装置は、前記生体に装着された前記生体情報検出センサのセンサ識別情報を取得して、前記第１紐付け情報を送信する、請求項６に記載の生体情報検出センサ。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本発明は、生体情報送信システム、生体情報検出センサ、情報処理装置、及び、生体情報送信方法に関する。

【背景技術】

【０００２】

従来、医療機器の分野においては、心電図等の生体情報を検出し、当該検出した生体情報を無線で送信する生体情報検出センサ（医療用テレメータ）が知られている（例えば、特許文献１参照）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００３】

【特許文献１】特開２０１４－６８７１８号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【０００４】

しかしながら、特許文献１に記載の生体情報検出センサにおいては、当該生体情報検出センサが無線で送信した生体情報が誰の生体情報であるかを容易に把握することができないという課題がある。

【０００５】

本発明は、上記事情に鑑みてなされたものであり、生体情報検出センサが無線で送信した生体情報が誰の生体情報であるかを容易に把握することができる生体情報送信システム

、生体情報検出センサ、情報処理装置、及び、生体情報送信方法を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【０００６】

上記目的を達成するために、本発明の一つの側面は、少なくとも１つの生体情報検出センサと、情報処理装置と、を備えた生体情報送信システムにおいて、前記情報処理装置は、前記生体情報検出センサのセンサ識別情報を取得するセンサ識別情報取得部と、生体の生体識別情報を取得する生体識別情報取得部と、前記センサ識別情報取得部が取得したセンサ識別情報と前記生体識別情報取得部が取得した前記生体の生体識別情報とを紐付けた第１紐付け情報を前記生体情報検出センサに送信する第１送信部と、を備え、前記生体情報検出センサは、生体の生体情報を検出する生体情報検出部と、自センサのセンサ識別情報が記憶された記憶部と、前記情報処理装置の前記第１送信部が送信した前記第１紐付け情報を受信する受信部と、前記受信部が受信した前記第１紐付け情報が、前記記憶部に記憶された前記自センサのセンサ識別情報を含むか否かを判定する判定部と、前記受信部が受信した前記第１紐付け情報が、前記記憶部に記憶された前記自センサのセンサ識別情報を含む場合、前記受信した第１紐付け情報中の生体識別情報と前記生体情報検出部が検出した前記生体の生体情報とを紐付けた第２紐付け情報を自センサ外部に送信する第２送信部と、を備えることを特徴とする。

【０００７】

この側面によれば、生体情報検出センサが無線で送信した生体情報が誰の生体情報であるかを容易に把握することができる生体情報送信システムを提供することができる。

【０００８】

これは、第１に、情報処理装置が、生体情報検出センサのセンサ識別情報と生体識別情報とを取得し、当該取得したセンサ識別情報と生体識別情報とを紐付けた第１紐付け情報を送信すること、第２に、生体情報検出センサが、情報処理装置が送信する第１紐付け情報（センサ識別情報と生体識別情報）を受信し、当該受信した第１紐付け情報（センサ識別情報と生体識別情報）が自センサのセンサ識別情報を含むか否かを判定し、当該受信した第１紐付け情報（センサ識別情報と生体識別情報）が自センサのセンサ識別情報を含む場合、当該受信した第１紐付け情報（センサ識別情報と生体識別情報）中の自センサのセンサ識別情報が紐付けられた生体識別情報と生体情報検出センサが検出した生体情報とを紐付けた第２紐付け情報を自センサ外部に送信することによるものである。

【０００９】

すなわち、生体情報検出センサは、当該生体情報検出センサが検出した生体情報を、生体識別情報が紐付けられた第２紐付け情報として送信するため、当該第２紐付け情報を受信した側は、受信した生体情報が誰の生体情報であるかを容易に把握することができる。

【図面の簡単な説明】

【００１０】

【図１】医用テレメータシステム１０の概略構成図である。

【図２】（ａ）生体情報検出センサ２０の概略ハード構成図、（ｂ）受信機３０の概略ハード構成図である。

【図３】医用テレメータシステム１０の動作を説明するためのシーケンス図である。

【図４】医用テレメータシステム１０の動作を説明するためのシーケンス図である。

【図５】受信機３０が第１紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅ）を生体情報検出センサ２０に送信（ブロードキャスト）している様子を表す図である。

【図６】生体情報検出センサ２０が第２紐付け情報（センサ識別情報と患者識別情報と患者５０の生体情報）を送信している様子を表す図である。

【図７】第２紐付け情報（センサ識別情報と患者識別情報と患者５０の生体情報）の表示例である。

【図８】複数の患者５０Ａ～５０Ｃに生体情報検出センサ$20a_1$～$20c_1$、$20a_2$～$20c_2$、$20a_3$～$20c_3$を装着した状態を表す図である。

【図９】受信機３０が第１紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅ，センサ識別情報Ｏ～Ｑと患者識別情報Ｉ，センサ識別情報Ｓ～Ｕと患者識別情報Ｙ）を生体情報検出センサ２０に送信（ブロードキャスト）している様子を表す図である。
【図１０】生体情報検出センサ２０が第２紐付け情報（センサ識別情報と患者識別情報と患者５０の生体情報）を送信している様子を表す図である。
【図１１】第２紐付け情報（センサ識別情報と患者識別情報と患者５０の生体情報）の表示例である。
【図１２】医用テレメータシステム１０の他の動作を説明するためのシーケンス図である。
【図１３】医用テレメータシステム１０の他の動作を説明するためのシーケンス図である。
【図１４】受信機３０が第３紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅと看護師識別情報Ｆ）を生体情報検出センサ２０に送信（ブロードキャスト）している様子を表す図である。
【図１５】生体情報検出センサ２０が第４紐付け情報（センサ識別情報と患者識別情報と患者５０の生体情報と看護師識別情報）を送信している様子を表す図である。
【発明を実施するための形態】
【００１１】
以下、本発明の一実施形態である医用テレメータシステム１０について添付図面を参照しながら説明する。各図において対応する構成要素には同一の符号が付され、重複する説明は省略される。
【００１２】
［医用テレメータシステム１０の概要］
図１は、医用テレメータシステム１０の概略構成図である。
【００１３】
図１に示すように、生体情報送信システム（以下、医用テレメータシステム１０という）は、生体情報検出センサ２０ａ～２０ｃ、情報処理装置（以下、受信機３０という）、及び、生体情報表示装置４０等を備える。
【００１４】
生体情報検出センサ２０ａは、生体（以下、患者５０という）に貼り付けられたパッド６０に装着されて当該患者５０の生体情報として心電図の測定を行い、測定した心電図（心電図データ）を受信機３０に無線で送信する。生体情報検出センサ２０ｂは、患者５０に貼りつけられたパッド６０に装着されて当該患者の生体情報としてＮＩＢＰ（非観血血圧）の測定を行い、測定したＮＩＢＰ（ＮＩＢＰデータ）を受信機３０に無線で送信する。生体情報検出センサ２０ｃは、患者５０に貼りつけられたパッド６０に装着されて当該患者の生体情報としてＴＥＭＰ（体温）の測定を行い、測定した体温（体温データ）を受信機３０に無線で送信する。以下、生体情報検出センサ２０ａ～２０ｃを特に区別しない場合、生体情報検出センサ２０と記載する。
【００１５】
受信機３０は、例えば、スマートフォンであり、生体情報検出センサ２０が無線で送信した生体情報を受信し、受信した生体情報を当該受信機３０が備えるディスプレイ（図示せず）に表示する。または、受信した生体情報を生体情報表示装置４０に無線で送信（転送）する。なお、受信機３０は、生体情報検出センサ２０から無線で送信される生体情報を受信し、受信した生体情報を生体情報表示装置４０に無線で送信できる装置であればよく、スマートフォンに限らない。
【００１６】
生体情報表示装置４０は、受信機３０が送信した生体情報を受信し、受信した生体情報を当該生体情報表示装置４０が備えるディスプレイ（図示せず）に表示する。
【００１７】
［生体情報検出センサ］

次に、生体情報検出センサ２０について説明する。図２（ａ）は、生体情報検出センサ２０の概略ハード構成図である。

【００１８】

図２（ａ）に示すように、生体情報検出センサ２０は、生体情報検出部２１と、センサ入力部２２と、制御部２３と、記憶部２４と、無線通信部２５と、センサ識別情報記録部２６と、筐体２７と、を備える。

【００１９】

生体情報検出部２１は、患者５０の生体情報（又は生体信号）を検出する。例えば、生体情報検出センサ２０ａの生体情報検出部２１は、３リード電極（Ｒ、Ｌ、Ｆ）で、患者５０の生体情報（又は生体信号）として心電図を検出する。また、生体情報検出センサ２０ｂの生体情報検出部２１は、ＮＩＢＰセンサで、患者５０の生体情報（又は生体信号）としてＮＩＢＰを検出する。また、生体情報検出センサ２０ｃの生体情報検出部２１は、温度センサで、患者５０の生体情報（又は生体信号）として体温（ＴＥＭＰ）を検出する。

【００２０】

センサ入力部２２は、生体情報検出部２１が検出した患者５０の生体情報を増幅、Ａ／Ｄ変換等して制御部２３に入力する。

【００２１】

制御部２３は、ＣＰＵやＲＡＭを含む。生体情報検出センサ２０のＣＰＵは、所定プログラムを実行することで、生体情報検出センサ２０を構成する各種ハードウェア（例えば、無線通信部２５）を制御する。例えば、生体情報検出センサ２０のＣＰＵは、Ａ／Ｄ変換器によって変換された生体情報（例えば、心電図データ）を、無線通信部２５を介して受信機３０に送信する。また、生体情報検出センサ２０のＣＰＵは、所定プログラムを実行することで、無線通信部２５が受信した第１紐付け情報が、記憶部２４に記憶された自センサのセンサ識別情報を含むか否かを判定する判定部２３ａとして機能する。

【００２２】

記憶部２４は、例えば、フラッシュＲＯＭ等の読み書き可能な不揮発性メモリで、自センサのセンサ識別情報が予め記憶されている。例えば、図５に示すように、生体情報検出センサ２０ａの記憶部２４には、当該生体情報検出センサ２０ａのセンサ識別情報（以下、センサ識別情報Ａという）が予め記憶されている。また、生体情報検出センサ２０ｂの記憶部２４には、当該生体情報検出センサ２０ｂのセンサ識別情報（以下、センサ識別情報Ｂという）が予め記憶されている。また、生体情報検出センサ２０ｃの記憶部２４には、当該生体情報検出センサ２０ｃのセンサ識別情報（以下、センサ識別情報Ｃという）が予め記憶されている。

【００２３】

無線通信部２５は、例えば、ＢＬＥ（Bluetooth Low Energy）技術に対応できる通信モジュール（例えば、ＢＬＥモジュール）であり、アンテナ２５ａを介して、近距離（例えば１００ｍｍ）内の他のＢＬＥ対応デバイス（例えば、受信機３０）と無線通信する。無線通信部２５が本発明の受信部、第２送信部に相当する。

【００２４】

センサ識別情報記録部２６は、例えば、図１に示すように、筐体２７に設けられる。センサ識別情報記録部２６には、記憶部２４に記憶された自センサのセンサ識別情報と同じセンサ識別情報を表すバーコードが記録されている。例えば、図５に示すように、生体情報検出センサ２０ａのセンサ識別情報記録部２６には、当該生体情報検出センサ２０ａのセンサ識別情報Ａと同じセンサ識別情報を表すバーコード（以下、バーコードＡという）が記録されている。また、生体情報検出センサ２０ｂのセンサ識別情報記録部２６には、当該生体情報検出センサ２０ｂのセンサ識別情報Ｂと同じセンサ識別情報を表すバーコード（以下、バーコードＢという）が記録されている。また、生体情報検出センサ２０ｃのセンサ識別情報記録部２６には、当該生体情報検出センサ２０ｃのセンサ識別情報Ｃと同じセンサ識別情報を表すバーコード（以下、バーコードＣという）が記録されている。

【００２５】
具体的には、センサ識別情報記録部２６は、筐体２７に貼り付けられたシール又は電子ペーパー等の表示面である。バーコードＡ～Ｃは、筐体２７に貼り付けられたシールに印字又は電子ペーパー等の表示面に表示される。
【００２６】
筐体２７は、例えば、矩形箱状の筐体で、センサ入力部２２、制御部２３、記憶部２４、無線通信部２５を収容する。
【００２７】
［受信機］
次に、受信機３０について説明する。図２（ｂ）は、受信機３０の概略ハード構成図である。
【００２８】
図２（ｂ）に示すように、受信機３０は、識別情報入力部３１と、制御部３２と、記憶部３３と、無線通信部３４と、を備える。
【００２９】
識別情報入力部３１は、患者５０に装着されたリストバンド５１に記録された当該患者５０の生体識別情報（以下、患者識別情報Ｅという）を表すバーコード（以下、バーコードＥという）、及び、患者５０に装着された生体情報検出センサ２０のセンサ識別情報記録部２６に記録されたバーコードＡ～Ｃを光学的に読み取る手段であり、図示しないが、バーコードＡ～Ｃ、Ｅを撮像するＣＣＤ等のカメラ、当該撮像した画像に基づいてバーコードＡ～Ｃ、Ｅを認識するバーコード認識部、当該認識したバーコードが表すセンサ識別情報Ａ～Ｃ及び患者識別情報Ｅを検出する識別情報検出部等を備える。識別情報検出部が検出したセンサ識別情報Ａ～Ｃ及び患者識別情報Ｅは、制御部３２に入力され、図５に示すように、記憶部３３に記憶される。バーコード認識部及び識別情報検出部は、例えば、生体情報検出センサ２０のＣＰＵが所定プログラムを実行することで実現される。識別情報入力部３１が本発明のセンサ識別情報取得部、生体識別情報取得部に相当する。
【００３０】
制御部３２は、ＣＰＵやＲＯＭを含む。受信機３０のＣＰＵは、所定プログラムを実行することで、受信機３０を構成する各種ハードウェア（例えば、無線通信部３４）を制御する。例えば、受信機３０のＣＰＵは、識別情報入力部３１から入力（取得）されたセンサ識別情報と患者識別情報とを紐付けた第１紐付け情報を、無線通信部３４を介して生体情報検出センサ２０に送信する。
【００３１】
記憶部３３は、例えば、ＲＡＭで、識別情報入力部３１から入力（取得）されたセンサ識別情報と患者識別情報とが記憶される。
【００３２】
無線通信部３４は、例えば、ＢＬＥ（Bluetooth Low Energy）技術に対応できる通信モジュール（例えば、ＢＬＥモジュール）であり、アンテナ３４ａを介して、近距離（例えば１００ｍｍ）内の他のＢＬＥ対応デバイス（例えば、生体情報検出センサ２０）と無線通信する。無線通信部３４が本発明の第１送信部に相当する。
【００３３】
［医用テレメータシステム１０の動作例］
次に、上記構成の医用テレメータシステム１０の動作例について説明する。図３、図４は、医用テレメータシステム１０の動作を説明するためのシーケンス図である。
【００３４】
［患者が一人の場合の動作例］
以下、患者が一人の場合の動作例について図３、図４を参照しながら説明する。
【００３５】
まず、図１に示すように、生体情報検出センサ２０ａ～２０ｃを患者５０に装着し（ステップＳ１０）、生体情報検出センサ２０ａ～２０ｃそれぞれの電源スイッチ（図示せず

）をＯＮする（ステップＳ１２）。これにより、生体情報検出センサ２０ａ～２０ｃそれぞれの無線通信部２５が受信機３０からの無線通信を待ち受ける状態となる。

【００３６】

次に、患者５０に装着された生体情報検出センサ２０ａ～２０ｃそれぞれのセンサ識別情報記録部２６に記録されたバーコードＡ～Ｃを読み取り（ステップＳ１４）、次いで、患者５０に装着されたリストバンド５１に記録されたバーコードＥを読み取る（ステップＳ１６）。具体的には、生体情報検出センサ２０ａ～２０ｃそれぞれのセンサ識別情報記録部２６に記録されたバーコードＡ～Ｃ、及び、患者５０に装着されたリストバンド５１に記録されたバーコードＥを受信機３０に設けられたＣＣＤ等のカメラで順次撮像する。バーコード認識部は、当該撮像した画像に基づいてバーコードＡ～Ｃ、Ｅを認識する。そして、識別情報検出部は、当該認識したバーコードが表すセンサ識別情報Ａ～Ｃ及び患者識別情報Ｅを検出する。識別情報検出部が検出したセンサ識別情報Ａ～Ｃ及び患者識別情報Ｅは、制御部３２に入力され、図５に示すように、記憶部３３に記憶される。

【００３７】

次に、受信機３０のＣＰＵは、記憶部３３からセンサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅとを読み出し、センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅとを紐付けた第１紐付け情報を生成し（ステップＳ１８）、図５に示すように、生成した第１紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅ）を無線通信部３４を介して生体情報検出センサ２０に送信（例えば、ブロードキャスト又はアドバタイジング）する（ステップＳ２０）。図５は、受信機３０が第１紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅ）を生体情報検出センサ２０に送信（ブロードキャスト）している様子を表す図である。

【００３８】

次に、生体情報検出センサ２０のＣＰＵは、第１紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅ）を無線通信部２５が受信した場合、受信した第１紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅ）を生体情報検出センサ２０の記憶部２４等に記憶する。そして、生体情報検出センサ２０のＣＰＵ（判定部２３ａ）は、受信した第１紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅ）が、記憶部２４に予め記憶された自センサのセンサ識別情報を含むか否かを判定する（ステップＳ２２）。

【００３９】

その結果、生体情報検出センサ２０のＣＰＵは、受信した第１紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅ）が、記憶部２４に予め記憶された自センサのセンサ識別情報を含むと判定した場合(ステップＳ２２：Ｙｅｓ）、受信機３０との間にコネクションを確立し、記憶部２４から自センサのセンサ識別情報と当該自センサのセンサ識別情報が紐付けられた患者識別情報とを読み出し、自センサのセンサ識別情報と患者識別情報と生体情報検出部２１が検出した患者５０の生体情報とを紐付けた第２紐付け情報を生成し（ステップＳ２４）、生成した第２紐付け情報（センサ識別情報と患者識別情報と患者５０の生体情報）を無線通信部２５を介して受信機３０に送信する（ステップＳ２６）。

【００４０】

例えば、生体情報検出センサ２０ａのＣＰＵは、受信した第１紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅ）が、記憶部２４に記憶された自センサのセンサ識別情報Ａを含むと判定した場合(ステップＳ２２：Ｙｅｓ）、受信機３０との間にコネクションを確立し、記憶部２４から自センサのセンサ識別情報Ａと当該自センサのセンサ識別情報が紐付けられた患者識別情報Ｅとを読み出し、自センサのセンサ識別情報Ａと患者識別情報Ｅと生体情報検出部２１が検出した患者５０の生体情報（心電図データ）とを紐付けた第２紐付け情報を生成し（ステップＳ２４）、図６に示すように、生成した第２紐付け情報（センサ識別情報Ａと患者識別情報Ｅと患者５０の生体情報（心電図データ））を無線通信部２５を介して受信機３０に送信する（ステップＳ２６）。図６は、生体情報検出センサ２０が第２紐付け情報（センサ識別情報と患者識別情報と患者５０の生体情報）を送信している様子を表す図である。

【００４１】

同様に、生体情報検出センサ２０ｂのＣＰＵは、受信した第１紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅ）が、記憶部２４に記憶された自センサのセンサ識別情報Ｂを含むと判定した場合(ステップＳ２２：Ｙｅｓ）、受信機３０との間にコネクションを確立し、記憶部２４から自センサのセンサ識別情報Ｂと当該自センサのセンサ識別情報が紐付けられた患者識別情報Ｅとを読み出し、自センサのセンサ識別情報Ｂと患者識別情報Ｅと生体情報検出部２１が検出した患者５０の生体情報（ＮＩＢＰデータ）とを紐付けた第２紐付け情報を生成し（ステップＳ２４）、図６に示すように、生成した第２紐付け情報（センサ識別情報Ｂと患者識別情報Ｅと患者５０の生体情報（ＮＩＢＰデータ））を無線通信部２５を介して受信機３０に送信する（ステップＳ２６）。

【００４２】

同様に、生体情報検出センサ２０ｃのＣＰＵは、受信した第１紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅ）が、記憶部２４に記憶された自センサのセンサ識別情報Ｃを含むと判定した場合(ステップＳ２２：Ｙｅｓ）、受信機３０との間にコネクションを確立し、記憶部２４から自センサのセンサ識別情報Ｃと当該自センサのセンサ識別情報が紐付けられた患者識別情報Ｅとを読み出し、自センサのセンサ識別情報Ｃと患者識別情報Ｅと生体情報検出部２１が検出した患者５０の生体情報（体温データ）とを紐付けた第２紐付け情報を生成し（ステップＳ２４）、図６に示すように、生成した第２紐付け情報（センサ識別情報Ｃと患者識別情報Ｅと患者５０の生体情報（体温データ））を無線通信部２５を介して受信機３０（又は生体情報表示装置４０）に送信する（ステップＳ２６）。

【００４３】

次に、受信機３０は、生体情報検出センサ２０が送信した第２紐付け情報を無線通信部３４が受信した場合、受信した第２紐付け情報を生体情報表示装置４０に送信（転送）する（ステップＳ２８）。

【００４４】

次に、生体情報表示装置４０は、受信機３０（又は生体情報検出センサ２０）が送信した第２紐付け情報を受信した場合、受信した第２紐付け情報（センサ識別情報と患者識別情報と患者５０の生体情報）を当該生体情報表示装置４０が備えるディスプレイに表示する（ステップＳ３０）。

【００４５】

例えば、図７に示すように、生体情報表示装置４０が備えるディスプレイ中の所定領域に、患者名、心電図、ＮＩＢＰ、ＴＥＭＰを表示する。図７は、第２紐付け情報（センサ識別情報と患者識別情報と患者５０の生体情報）の表示例である。なお、患者名は、例えば、電子カルテ（図示せず）が保持する患者識別情報と患者名との対応関係を参照することで取得することができる。

【００４６】

以上説明したように、本動作例によれば、生体情報検出センサ２０が無線で送信した生体情報が誰の生体情報であるかを容易に把握することができる生体情報送信システム、生体情報検出センサ、情報処理装置、及び、生体情報送信方法を提供することができる。

【００４７】

これは、第１に、受信機３０が、患者５０に装着された生体情報検出センサ２０のセンサ識別情報Ａ～Ｃと患者５０の患者識別情報Ｅとを取得し、当該取得したセンサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅとを紐付けた第１紐付け情報を送信すること、第２に、生体情報検出センサ２０が、受信機３０が送信する第１紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅ）を受信し、当該受信した第１紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅ）が自センサのセンサ識別情報を含むか否かを判定し、当該受信した第１紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅ）が自センサのセンサ識別情報を含む場合、当該受信した第１紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅ）中の自センサのセンサ識別情報が紐付けられた患者識別情報と自センサのセンサ識別情報と生体情報検出センサ２０が検出した生体情報とを紐付けた第２紐付け情報を自センサ外部に送信することによるものである。

【００４８】
すなわち、生体情報検出センサ２０は、当該生体情報検出センサ２０が検出した患者５０の生体情報を、自センサのセンサ識別情報と患者識別情報とが紐付けられた第２紐付け情報として送信するため、当該第２紐付け情報を受信した側（例えば、受信機３０）は、受信した患者５０の生体情報が誰の生体情報であるかを容易に把握することができる。
【００４９】
［患者が複数人の場合の動作例］
次に、患者が複数人（例えば、３人）の場合の動作例について図３、図４を参照しながら説明する。
【００５０】
図８は、複数の患者５０Ａ～５０Ｃに生体情報検出センサ２０ａ$_1$～２０ｃ$_1$、２０ａ$_2$～２０ｃ$_2$、２０ａ$_3$～２０ｃ$_3$を装着した状態を表す図である。
【００５１】
まず、図８に示すように、生体情報検出センサ２０ａ$_1$～２０ｃ$_1$を患者５０Ａに装着し、生体情報検出センサ２０ａ$_2$～２０ｃ$_2$を患者５０Ｂに装着し、生体情報検出センサ２０ａ$_3$～２０ｃ$_3$を患者５０Ｃに装着し（ステップＳ１０）、生体情報検出センサ２０ａ$_1$～２０ｃ$_1$、２０ａ$_2$～２０ｃ$_2$、２０ａ$_3$～２０ｃ$_3$それぞれの電源スイッチ（図示せず）をＯＮする（ステップＳ１２）。これにより、生体情報検出センサ２０ａ$_1$～２０ｃ$_1$、２０ａ$_2$～２０ｃ$_2$、２０ａ$_3$～２０ｃ$_3$それぞれの無線通信部２５が受信機３０からの無線通信を待ち受ける状態となる。
【００５２】
図９は、受信機３０が第１紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅ，センサ識別情報Ｏ～Ｑと患者識別情報Ｉ，センサ識別情報Ｓ～Ｕと患者識別情報Ｙ）を生体情報検出センサ２０に送信（ブロードキャスト）している様子を表す図である。
【００５３】
図９に示すように、生体情報検出センサ２０ａ$_1$の記憶部２４には、当該生体情報検出センサ２０ａ$_1$のセンサ識別情報（以下、センサ識別情報Ａという）が予め記憶されている。また、生体情報検出センサ２０ｂ$_1$の記憶部２４には、当該生体情報検出センサ２０ｂ$_1$のセンサ識別情報（以下、センサ識別情報Ｂという）が予め記憶されている。また、生体情報検出センサ２０ｃ$_1$の記憶部２４には、当該生体情報検出センサ２０ｃ$_1$のセンサ識別情報（以下、センサ識別情報Ｃという）が予め記憶されている。
【００５４】
また、生体情報検出センサ２０ａ$_2$の記憶部２４には、当該生体情報検出センサ２０ａ$_2$のセンサ識別情報（以下、センサ識別情報Ｏという）が予め記憶されている。また、生体情報検出センサ２０ｂ$_2$の記憶部２４には、当該生体情報検出センサ２０ｂ$_2$のセンサ識別情報（以下、センサ識別情報Ｐという）が予め記憶されている。また、生体情報検出センサ２０ｃ$_2$の記憶部２４には、当該生体情報検出センサ２０ｃ$_2$のセンサ識別情報（以下、センサ識別情報Ｑという）が予め記憶されている。
【００５５】
また、生体情報検出センサ２０ａ$_3$の記憶部２４には、当該生体情報検出センサ２０ａ$_3$のセンサ識別情報（以下、センサ識別情報Ｓという）が予め記憶されている。また、生体情報検出センサ２０ｂ$_3$の記憶部２４には、当該生体情報検出センサ２０ｂ$_3$のセンサ識別情報（以下、センサ識別情報Ｔという）が予め記憶されている。また、生体情報検出センサ２０ｃ$_3$の記憶部２４には、当該生体情報検出センサ２０ｃ$_3$のセンサ識別情報（以下、センサ識別情報Ｕという）が予め記憶されている。
【００５６】
また、図９に示すように、生体情報検出センサ２０ａ$_1$のセンサ識別情報記録部２６には、当該生体情報検出センサ２０ａ$_1$のセンサ識別情報Ａと同じセンサ識別情報を表すバーコード（以下、バーコードＡという）が記録されている。また、生体情報検出センサ２０ｂ$_1$のセンサ識別情報記録部２６には、当該生体情報検出センサ２０ｂ$_1$のセンサ識別

情報Ｂと同じセンサ識別情報を表すバーコード（以下、バーコードＢという）が記録されている。また、生体情報検出センサ２０ｃ$_1$のセンサ識別情報記録部２６には、当該生体情報検出センサ２０ｃ$_1$のセンサ識別情報Ｃと同じセンサ識別情報を表すバーコード（以下、バーコードＣという）が記録されている。

【００５７】

また、生体情報検出センサ２０ａ$_2$のセンサ識別情報記録部２６には、当該生体情報検出センサ２０ａ$_2$のセンサ識別情報Ｏと同じセンサ識別情報を表すバーコード（以下、バーコードＯという）が記録されている。また、生体情報検出センサ２０ｂ$_2$のセンサ識別情報記録部２６には、当該生体情報検出センサ２０ｂ$_2$のセンサ識別情報Ｐと同じセンサ識別情報を表すバーコード（以下、バーコードＰという）が記録されている。また、生体情報検出センサ２０ｃ$_2$のセンサ識別情報記録部２６には、当該生体情報検出センサ２０ｃ$_2$のセンサ識別情報Ｑと同じセンサ識別情報を表すバーコード（以下、バーコードＱという）が記録されている。

【００５８】

また、生体情報検出センサ２０ａ$_3$のセンサ識別情報記録部２６には、当該生体情報検出センサ２０ａ$_3$のセンサ識別情報Ｓと同じセンサ識別情報を表すバーコード（以下、バーコードＳという）が記録されている。また、生体情報検出センサ２０ｂ$_3$のセンサ識別情報記録部２６には、当該生体情報検出センサ２０ｂ$_3$のセンサ識別情報Ｔと同じセンサ識別情報を表すバーコード（以下、バーコードＴという）が記録されている。また、生体情報検出センサ２０ｃ$_3$のセンサ識別情報記録部２６には、当該生体情報検出センサ２０ｃ$_3$のセンサ識別情報Ｕと同じセンサ識別情報を表すバーコード（以下、バーコードＵという）が記録されている。

【００５９】

以下、生体情報検出センサ２０ａ$_1$～２０ｃ$_1$、２０ａ$_2$～２０ｃ$_2$、２０ａ$_3$～２０ｃ$_3$を特に区別しない場合、生体情報検出センサ２０ａ～２０ｃと記載する。

【００６０】

次に、患者５０Ａに装着された生体情報検出センサ２０ａ$_1$～２０ｃ$_1$それぞれのセンサ識別情報記録部２６に記録されたバーコードＡ～Ｃを読み取り（ステップＳ１４）、次いで、患者５０Ａに装着されたリストバンド５１Ａに記録されたバーコードＥを読み取る（ステップＳ１６）。具体的には、生体情報検出センサ２０ａ$_1$～２０ｃ$_1$それぞれのセンサ識別情報記録部２６に記録されたバーコードＡ～Ｃ、及び、患者５０Ａに装着されたリストバンド５１Ａに記録されたバーコードＥを受信機３０に設けられたＣＣＤ等のカメラで順次撮像する。バーコード認識部は、当該撮像した画像に基づいてバーコードＡ～Ｃ、Ｅを認識する。そして、識別情報検出部は、当該認識したバーコードが表すセンサ識別情報Ａ～Ｃ及び患者識別情報Ｅを検出する。識別情報検出部が検出したセンサ識別情報Ａ～Ｃ及び患者識別情報Ｅは、制御部３２に入力され、図９に示すように、記憶部３３に記憶される。

【００６１】

次に、患者５０Ｂに装着された生体情報検出センサ２０ａ$_2$～２０ｃ$_2$それぞれのセンサ識別情報記録部２６に記録されたバーコードＯ～Ｑを読み取り（ステップＳ１４）、次いで、患者５０Ｂに装着されたリストバンド５１Ｂに記録されたバーコードＩを読み取る（ステップＳ１６）。具体的には、生体情報検出センサ２０ａ$_2$～２０ｃ$_2$それぞれのセンサ識別情報記録部２６に記録されたバーコードＯ～Ｑ、及び、患者５０Ｂに装着されたリストバンド５１Ｂに記録されたバーコードＩを受信機３０に設けられたＣＣＤ等のカメラで順次撮像する。バーコード認識部は、当該撮像した画像に基づいてバーコードＯ～Ｑ、Ｉを認識する。そして、識別情報検出部は、当該認識したバーコードが表すセンサ識別情報Ｏ～Ｑ及び患者識別情報Ｉを検出する。識別情報検出部が検出したセンサ識別情報Ｏ～Ｑ及び患者識別情報Ｉは、制御部３２に入力され、図９に示すように、記憶部３３に記憶される。

【００６２】

次に、患者５０Ｃに装着された生体情報検出センサ２０ａ$_3$～２０ｃ$_3$それぞれのセンサ識別情報記録部２６に記録されたバーコードＳ～Ｕを読み取り（ステップＳ１４）、次いで、患者５０Ｃに装着されたリストバンド５１Ｃに記録されたバーコードＹを読み取る（ステップＳ１６）。具体的には、生体情報検出センサ２０ａ$_3$～２０ｃ$_3$それぞれのセンサ識別情報記録部２６に記録されたバーコードＳ～Ｕ、及び、患者５０Ｃに装着されたリストバンド５１Ｃに記録されたバーコードＹを受信機３０に設けられたＣＣＤ等のカメラで順次撮像する。バーコード認識部は、当該撮像した画像に基づいてバーコードＳ～Ｕ、Ｙを認識する。そして、識別情報検出部は、当該認識したバーコードが表すセンサ識別情報Ｓ～Ｕ及び患者識別情報Ｙを検出する。識別情報検出部が検出したセンサ識別情報Ｓ～Ｕ及び患者識別情報Ｙは、制御部３２に入力され、図９に示すように、記憶部３３に記憶される。

【００６３】

次に、受信機３０のＣＰＵは、記憶部３３からセンサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅ、センサ識別情報Ｏ～Ｑと患者識別情報Ｉ、センサ識別情報Ｓ～Ｕと患者識別情報Ｙを読み出し、センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅとを紐付けた第１紐付け情報、センサ識別情報Ｏ～Ｑと患者識別情報Ｉとを紐付けた第１紐付け情報、センサ識別情報Ｓ～Ｕと患者識別情報Ｙとを紐付けた第１紐付け情報を生成し（ステップＳ１８）、図９に示すように、生成した第１紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅ，センサ識別情報Ｏ～Ｑと患者識別情報Ｉ，センサ識別情報Ｓ～Ｕと患者識別情報Ｙ）を無線通信部３４を介して生体情報検出センサ２０に送信（例えば、ブロードキャスト又はアドバタイジング）する（ステップＳ２０）。

【００６４】

次に、生体情報検出センサ２０のＣＰＵは、第１紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅ，センサ識別情報Ｏ～Ｑと患者識別情報Ｉ，センサ識別情報Ｓ～Ｕと患者識別情報Ｙ）を無線通信部２５が受信した場合、受信した第１紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅ，センサ識別情報Ｏ～Ｑと患者識別情報Ｉ，センサ識別情報Ｓ～Ｕと患者識別情報Ｙ）を生体情報検出センサ２０の記憶部２４等に記憶する。そして、生体情報検出センサ２０のＣＰＵ（判定部２３ａ）は、受信した第１紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅ，センサ識別情報Ｏ～Ｑと患者識別情報Ｉ，センサ識別情報Ｓ～Ｕと患者識別情報Ｙ）が、記憶部２４に予め記憶された自センサのセンサ識別情報を含むか否かを判定する（ステップＳ２２）。

【００６５】

その結果、生体情報検出センサ２０のＣＰＵは、受信した第１紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅ，センサ識別情報Ｏ～Ｑと患者識別情報Ｉ，センサ識別情報Ｓ～Ｕと患者識別情報Ｙ）が、記憶部２４に予め記憶された自センサのセンサ識別情報を含むと判定した場合(ステップＳ２２：Ｙｅｓ）、受信機３０との間にコネクションを確立し、記憶部２４から自センサのセンサ識別情報と当該自センサのセンサ識別情報が紐付けられた患者識別情報とを読み出し、自センサのセンサ識別情報と患者識別情報と生体情報検出部２１が検出した患者５０の生体情報とを紐付けた第２紐付け情報を生成し（ステップＳ２４）、生成した第２紐付け情報（センサ識別情報と患者識別情報と患者５０の生体情報）を無線通信部２５を介して受信機３０に送信する（ステップＳ２６）。

【００６６】

例えば、患者５０Ａに装着された生体情報検出センサ２０ａ$_1$のＣＰＵは、受信した第１紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅ，センサ識別情報Ｏ～Ｑと患者識別情報Ｉ，センサ識別情報Ｓ～Ｕと患者識別情報Ｙ）が、記憶部２４に記憶された自センサのセンサ識別情報Ａを含むと判定した場合(ステップＳ２２：Ｙｅｓ）、受信機３０との間にコネクションを確立し、記憶部２４から自センサのセンサ識別情報Ａと当該自センサのセンサ識別情報Ａが紐付けられた患者識別情報Ｅとを読み出し、自センサのセンサ識別情報Ａと患者識別情報Ｅと生体情報検出部２１が検出した患者５０Ａの生体情報（心電図データ）とを紐付けた第２紐付け情報を生成し（ステップＳ２４）、図１０に示すよう

に、生成した第２紐付け情報（センサ識別情報Ａと患者識別情報Ｅと患者５０Ａの生体情報（心電図データ））を無線通信部２５を介して受信機３０に送信する（ステップＳ２６）。同様に、患者５０Ａに装着された生体情報検出センサ２０ｂ$_1$（無線通信部３４）は、第２紐付け情報（センサ識別情報Ｂと患者識別情報Ｅと患者５０Ａの生体情報（ＮＩＢＰデータ））を受信機３０に送信する（ステップＳ２６）。同様に、患者５０Ａに装着された生体情報検出センサ２０ｃ$_1$（無線通信部３４）は、第２紐付け情報（センサ識別情報Ｃと患者識別情報Ｅと患者５０Ａの生体情報（体温データ））を受信機３０に送信する（ステップＳ２６）。

【００６７】

また例えば、患者５０Ｂに装着された生体情報検出センサ２０ａ$_2$のＣＰＵは、受信した第１紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅ，センサ識別情報Ｏ～Ｑと患者識別情報Ｉ，センサ識別情報Ｓ～Ｕと患者識別情報Ｙ）が、記憶部２４に記憶された自センサのセンサ識別情報Ｏを含むと判定した場合(ステップＳ２２：Ｙｅｓ）、受信機３０との間にコネクションを確立し、記憶部２４から自センサのセンサ識別情報Ｏと当該自センサのセンサ識別情報Ｏが紐付けられた患者識別情報Ｉとを読み出し、自センサのセンサ識別情報Ｏと患者識別情報Ｉと生体情報検出部２１が検出した患者５０Ｂの生体情報（心電図データ）とを紐付けた第２紐付け情報を生成し（ステップＳ２４）、図１０に示すように、生成した第２紐付け情報（センサ識別情報Ｏと患者識別情報Ｉと患者５０Ｂの生体情報（心電図データ））を無線通信部２５を介して受信機３０に送信する（ステップＳ２６）。同様に、患者５０Ｂに装着された生体情報検出センサ２０ｂ$_2$（無線通信部３４）は、第２紐付け情報（センサ識別情報Ｐと患者識別情報Ｉと患者５０Ｂの生体情報（ＮＩＢＰデータ））を受信機３０に送信する（ステップＳ２６）。同様に、患者５０Ｂに装着された生体情報検出センサ２０ｃ$_2$（無線通信部３４）は、第２紐付け情報（センサ識別情報Ｑと患者識別情報Ｉと患者５０Ｂの生体情報（体温データ））を受信機３０に送信する（ステップＳ２６）。

【００６８】

また例えば、患者５０Ｃに装着された生体情報検出センサ２０ａ$_3$のＣＰＵは、受信した第１紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅ，センサ識別情報Ｏ～Ｑと患者識別情報Ｉ，センサ識別情報Ｓ～Ｕと患者識別情報Ｙ）が、記憶部２４に記憶された自センサのセンサ識別情報Ｓを含むと判定した場合(ステップＳ２２：Ｙｅｓ）、受信機３０との間にコネクションを確立し、記憶部２４から自センサのセンサ識別情報Ｓと当該自センサのセンサ識別情報Ｓが紐付けられた患者識別情報Ｙとを読み出し、自センサのセンサ識別情報Ｓと患者識別情報Ｙと生体情報検出部２１が検出した患者５０Ｃの生体情報（心電図データ）とを紐付けた第２紐付け情報を生成し（ステップＳ２４）、図１０に示すように、生成した第２紐付け情報（センサ識別情報Ｓと患者識別情報Ｙと患者５０Ｃの生体情報（心電図データ））を無線通信部２５を介して受信機３０に送信する（ステップＳ２６）。同様に、患者５０Ｃに装着された生体情報検出センサ２０ｂ$_3$（無線通信部３４）は、第２紐付け情報（センサ識別情報Ｔと患者識別情報Ｙと患者５０Ｃの生体情報（ＮＩＢＰデータ））を受信機３０に送信する（ステップＳ２６）。同様に、患者５０Ｃに装着された生体情報検出センサ２０ｃ$_3$（無線通信部３４）は、第２紐付け情報（センサ識別情報Ｕと患者識別情報Ｙと患者５０Ｃの生体情報（体温データ））を受信機３０（又は生体情報表示装置４０）に送信する（ステップＳ２６）。

【００６９】

次に、受信機３０は、生体情報検出センサ２０が送信した第２紐付け情報を無線通信部３４が受信した場合、受信した第２紐付け情報を生体情報表示装置４０に送信（転送）する（ステップＳ２８）。

【００７０】

次に、生体情報表示装置４０は、受信機３０（又は生体情報検出センサ２０）が送信した第２紐付け情報を受信した場合、受信した第２紐付け情報（センサ識別情報と患者識別情報と患者５０の生体情報）を当該生体情報表示装置４０が備えるディスプレイに表示す

る（ステップＳ３０）。
【００７１】
例えば、図１１に示すように、生体情報表示装置４０が備えるディスプレイ中の所定領域に、患者名、心電図、ＮＩＢＰ、ＴＥＭＰを表示する。図１１は、第２紐付け情報（センサ識別情報と患者識別情報と患者５０の生体情報）の表示例である。なお、患者名は、例えば、電子カルテ（図示せず）が保持する患者識別情報Ｅと患者名との対応関係を参照することで取得することができる。
【００７２】
以上説明したように、本動作例によれば、生体情報検出センサ２０が無線で送信した生体情報が誰の生体情報であるかを容易に把握することができる生体情報送信システム、生体情報検出センサ、情報処理装置、及び、生体情報送信方法を提供することができる。
【００７３】
これは、第１に、受信機３０が、患者５０Ａ～５０Ｃに装着された生体情報検出センサ２０のセンサ識別情報Ａ～Ｃ、Ｏ～Ｑ、Ｓ～Ｕと患者５０の患者識別情報Ｅ、Ｉ、Ｙとを取得し、当該取得したセンサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅとを紐付けた第１紐付け情報、センサ識別情報Ｏ～Ｑと患者識別情報Ｉとを紐付けた第１紐付け情報、センサ識別情報Ｓ～Ｕと患者識別情報Ｙとを紐付けた第１紐付け情報を送信すること、第２に、生体情報検出センサ２０が、受信機３０が送信する第１紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅ、センサ識別情報Ｏ～Ｑと患者識別情報Ｉ、センサ識別情報Ｓ～Ｕと患者識別情報Ｙ）を受信し、当該受信した第１紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅ、センサ識別情報Ｏ～Ｑと患者識別情報Ｉ、センサ識別情報Ｓ～Ｕと患者識別情報Ｙ）が自センサのセンサ識別情報を含むか否かを判定し、当該受信した第１紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅ、センサ識別情報Ｏ～Ｑと患者識別情報Ｉ、センサ識別情報Ｓ～Ｕと患者識別情報Ｙ）が自センサのセンサ識別情報を含む場合、当該受信した第１紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅ、センサ識別情報Ｏ～Ｑと患者識別情報Ｉ、センサ識別情報Ｓ～Ｕと患者識別情報Ｙ）中の自センサのセンサ識別情報が紐付けられた患者識別情報と自センサのセンサ識別情報と生体情報検出センサ２０が検出した生体情報とを紐付けた第２紐付け情報を自センサ外部に送信することによるものである。
【００７４】
すなわち、生体情報検出センサ２０は、当該生体情報検出センサ２０が検出した患者５０Ａ～５０Ｃの生体情報を、自センサのセンサ識別情報と患者識別情報とが紐付けられた第２紐付け情報として送信するため、当該第２紐付け情報を受信した側（例えば、受信機３０）は、受信した患者５０Ａ～５０Ｃの生体情報が誰の生体情報であるかを容易に把握することができる。
【００７５】
［看護師識別情報を用いる場合の動作例］
次に、上記構成の医用テレメータシステム１０の他の動作例について説明する。図１２、図１３は、医用テレメータシステム１０の他の動作を説明するためのシーケンス図である。
【００７６】
図１２、図１３に示すシーケンス図は、図３、図４に示すシーケンス図に対して主にステップＳ１７を追加したものに相当する。以下、図３、図４に示すシーケンス図と同様の処理には同じ符号を付し、適宜説明を省略する。
【００７７】
まず、図１に示すように、生体情報検出センサ２０ａ～２０ｃを患者５０に装着し（ステップＳ１０）、生体情報検出センサ２０ａ～２０ｃそれぞれの電源スイッチ（図示せず）をＯＮする（ステップＳ１２）。これにより、生体情報検出センサ２０ａ～２０ｃそれぞれの無線通信部２５が受信機３０からの無線通信を待ち受ける状態となる。
【００７８】

次に、患者５０に装着された生体情報検出センサ２０ａ～２０ｃそれぞれのセンサ識別情報記録部２６に記録されたバーコードＡ～Ｃを読み取り（ステップＳ１４）、次いで、患者５０に装着されたリストバンド５１に記録されたバーコードＥを読み取り（ステップＳ１６）、次いで、これらの読み取り作業を行った看護師（又はその他の医療従事者）に装着された名札等に記録されたバーコードＦを読み取る（ステップＳ１７）。具体的には、生体情報検出センサ２０ａ～２０ｃそれぞれのセンサ識別情報記録部２６に記録されたバーコードＡ～Ｃ、患者５０に装着されたリストバンド５１に記録されたバーコードＥ、及び、看護師（又はその他の医療従事者）に装着された名札等に記録されたバーコードＦを受信機３０に設けられたＣＣＤ等のカメラで順次撮像する。バーコード認識部は、当該撮像した画像に基づいてバーコードＡ～Ｃ、Ｅ、Ｆを認識する。そして、識別情報検出部は、当該認識したバーコードが表すセンサ識別情報Ａ～Ｃ、患者識別情報Ｅ及び看護師識別情報Ｆを検出する。識別情報検出部が検出したセンサ識別情報Ａ～Ｃ、患者識別情報Ｅ及び看護師識別情報Ｆは、制御部３２に入力され、図１４に示すように、記憶部３３に記憶される。図１４は、受信機３０が第３紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅと看護師識別情報Ｆ）を生体情報検出センサ２０に送信（ブロードキャスト）している様子を表す図である。

【００７９】

次に、受信機３０のＣＰＵは、記憶部３３からセンサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅと看護師識別情報Ｆとを読み出し、センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅと看護師識別情報Ｆとを紐付けた第３紐付け情報を生成し（ステップＳ１８Ａ）、図１４に示すように、第３紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅと看護師識別情報Ｆ）を無線通信部３４を介して生体情報検出センサ２０に送信（例えば、ブロードキャスト又はアドバタイジング）する（ステップＳ２０Ａ）。

【００８０】

次に、生体情報検出センサ２０のＣＰＵは、第３紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅと看護師識別情報Ｆ）を無線通信部２５が受信した場合、受信した第３紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅと看護師識別情報Ｆ）を生体情報検出センサ２０の記憶部２４等に記憶する。そして、生体情報検出センサ２０のＣＰＵ（判定部２３ａ）は、受信した第３紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅと看護師識別情報Ｆ）が、記憶部２４に予め記憶された自センサのセンサ識別情報を含むか否かを判定する（ステップＳ２２Ａ）。

【００８１】

その結果、生体情報検出センサ２０のＣＰＵは、受信した第３紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅと看護師識別情報Ｆ）が、記憶部２４に予め記憶された自センサのセンサ識別情報を含むと判定した場合(ステップＳ２２Ａ：Ｙｅｓ）、受信機３０との間にコネクションを確立し、記憶部２４から自センサのセンサ識別情報と当該自センサのセンサ識別情報が紐付けられた患者識別情報と看護師識別情報とを読み出し、自センサのセンサ識別情報と患者識別情報と生体情報検出部２１が検出した患者５０の生体情報と看護師識別情報を紐付けた第４紐付け情報を生成し（ステップＳ２４Ａ）、生成した第４紐付け情報（センサ識別情報と患者識別情報と患者５０の生体情報と看護師識別情報）を無線通信部２５を介して受信機３０に送信する（ステップＳ２６Ａ）。

【００８２】

例えば、生体情報検出センサ２０ａのＣＰＵは、受信した第３紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅと看護師識別情報Ｆ）が、記憶部２４に記憶された自センサのセンサ識別情報Ａを含むと判定した場合(ステップＳ２２Ａ：Ｙｅｓ）、受信機３０との間にコネクションを確立し、記憶部２４から自センサのセンサ識別情報Ａと当該自センサのセンサ識別情報が紐付けられた患者識別情報Ｅと看護師識別情報Ｆとを読み出し、自センサのセンサ識別情報Ａと患者識別情報Ｅと生体情報検出部２１が検出した患者５０の生体情報（心電図データ）と看護師識別情報Ｆとを紐付けた第４紐付け情報を生成し（ステップＳ２４Ａ）、図１５に示すように、生成した当該第４紐付け情報（センサ識別情報

Ａと患者識別情報Ｅと患者５０の生体情報と看護師識別情報Ｆ）を無線通信部２５を介して受信機３０に送信する（ステップＳ２６Ａ）。

【００８３】

同様に、生体情報検出センサ２０ｂのＣＰＵは、受信した第３紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅと看護師識別情報Ｆ）が、記憶部２４に記憶された自センサのセンサ識別情報Ｂを含むと判定した場合(ステップＳ２２Ａ：Ｙｅｓ）、受信機３０との間にコネクションを確立し、記憶部２４から自センサのセンサ識別情報Ｂと当該自センサのセンサ識別情報が紐付けられた患者識別情報Ｅと看護師識別情報Ｆとを読み出し、自センサのセンサ識別情報Ｂと患者識別情報Ｅと生体情報検出部２１が検出した患者５０の生体情報（ＮＩＢＰデータ）と看護師識別情報Ｆとを紐付けた第４紐付け情報を生成し（ステップＳ２４Ａ）、図１５に示すように、生成した第４紐付け情報（センサ識別情報Ｂと患者識別情報Ｅと患者５０の生体情報と看護師識別情報Ｆ）を無線通信部２５を介して受信機３０に送信する（ステップＳ２６）。

【００８４】

同様に、生体情報検出センサ２０ｃのＣＰＵは、受信した第３紐付け情報（センサ識別情報Ａ～Ｃと患者識別情報Ｅと看護師識別情報Ｆ）が、記憶部２４に記憶された自センサのセンサ識別情報Ｃを含むと判定した場合(ステップＳ２２Ａ：Ｙｅｓ）、受信機３０との間にコネクションを確立し、記憶部２４から自センサのセンサ識別情報Ｃと当該自センサのセンサ識別情報が紐付けられた患者識別情報Ｅと看護師識別情報Ｆとを読み出し、自センサのセンサ識別情報Ｃと患者識別情報Ｅと生体情報検出部２１が検出した患者５０の生体情報（体温データ）と看護師識別情報Ｆとを紐付けた第４紐付け情報を生成し（ステップＳ２４Ａ）、図１５に示すように、生成した第４紐付け情報（センサ識別情報Ｃと患者識別情報Ｅと患者５０の生体情報と看護師識別情報Ｆ）を無線通信部２５を介して受信機３０（又は生体情報表示装置４０）に送信する（ステップＳ２６）。

【００８５】

次に、受信機３０は、生体情報検出センサ２０が送信した第４紐付け情報を無線通信部３４が受信した場合、受信した第４紐付け情報を生体情報表示装置４０に送信（転送）する（ステップＳ２８）。

【００８６】

次に、生体情報表示装置４０は、受信機３０（又は生体情報検出センサ２０）が送信した第４紐付け情報を受信した場合、受信した第４紐付け情報（センサ識別情報と患者識別情報と患者５０の生体情報と看護師識別情報）を当該生体情報表示装置４０が備えるディスプレイに表示する（ステップＳ３０Ａ）。

【００８７】

例えば、図７に示すように、生体情報表示装置４０が備えるディスプレイ中の所定領域に、患者名、心電図、ＮＩＢＰ、ＴＥＭＰを表示する。なお、患者名は、例えば、電子カルテ（図示せず）が保持する患者識別情報Ｅと患者名との対応関係を参照することで取得することができる。

【００８８】

また、生体情報表示装置４０は、受信した第４紐付け情報（センサ識別情報と患者識別情報と患者５０の生体情報と看護師識別情報）を当該生体情報表示装置４０が備える記憶部に履歴として記憶する。

【００８９】

以上説明したように、本動作例によれば、センサ識別情報及び患者識別情報の読み取りを誰が行ったかを容易に把握すること（いわゆる３点認証）が可能となる。これは、生体情報検出センサ２０が、第４紐付け情報として、センサ識別情報と患者識別情報に加えて看護師識別情報Ｆを送信すること、そして、受信した第４紐付け情報（センサ識別情報と患者識別情報と患者５０の生体情報と看護師識別情報）を当該生体情報表示装置４０等が備える記憶部に履歴として記憶すること、によるものである。

【００９０】

次に、変形例について説明する。

【００９１】

上記実施形態では、生体情報検出センサ２０として、心電図を検出する生体情報検出センサ２０ａ、ＮＩＢＰを検出する生体情報検出センサ２０ｂ、体温（ＴＥＭＰ）を検出する生体情報検出センサ２０ｃを用いた例について説明したが、これに限らない。例えば、ＳｐＯ２（動脈血酸素飽和度）を検出する生体情報検出センサ等、他の生体情報検出センサを用いてもよい。

【００９２】

また、上記実施形態では、センサ識別情報記録部２６として、筐体２７に貼り付けられたシール又は電子ペーパー等の表示面を用い、当該シール又は電子ペーパー等の表示面に記憶部２４に記憶された自センサのセンサ識別情報と同じセンサ識別情報（バーコード）を印字又は表示する例について説明したが、これに限らない。例えば、センサ識別情報記録部２６として、筐体２７に貼りつけられた又は内蔵されたＲＦタグを用い、記憶部２４に記憶された自センサのセンサ識別情報と同じセンサ識別情報をＲＦタグ（正確には、ＲＦタグ中のメモリ）に記憶してもよい。この場合、受信機３０として、例えば、ＲＦタグからセンサ識別情報を無線で読み出すリーダライタ付きのスマートフォンを用いることができる。なお、ＲＦタグは、電子タグ、ＩＣタグ、無線タグ、ＲＦＩＤタグと呼ばれることもある。

【００９３】

また、上記実施形態では、無線通信部２５、３４として、ＢＬＥ（Bluetooth Low Energy）技術に対応できる通信モジュール（例えば、ＢＬＥモジュール）を用いた例について説明したが、これに限らない。例えば、無線通信部２５、３４として、無線ＬＡＮ技術に対応できる通信モジュール（例えば、無線ＬＡＮモジュール）を用いてもよい。

【００９４】

また、上記実施形態では、第２紐付け情報として、自センサのセンサ識別情報と患者識別情報と生体情報検出部２１が検出した患者５０の生体情報（例えば、心電図データ）とを紐付けた紐付け情報を用いた例について説明したが、これに限らない。例えば、第２紐付け情報として、自センサのセンサ識別情報を省略し、患者識別情報と生体情報検出部２１が検出した患者５０の生体情報（例えば、心電図データ）とを紐付けた紐付け情報を用いてもよい。これによっても、第２紐付け情報を受信した側（例えば、受信機３０）は、受信した患者５０の生体情報が誰の生体情報であるかを容易に把握することができる。

【００９５】

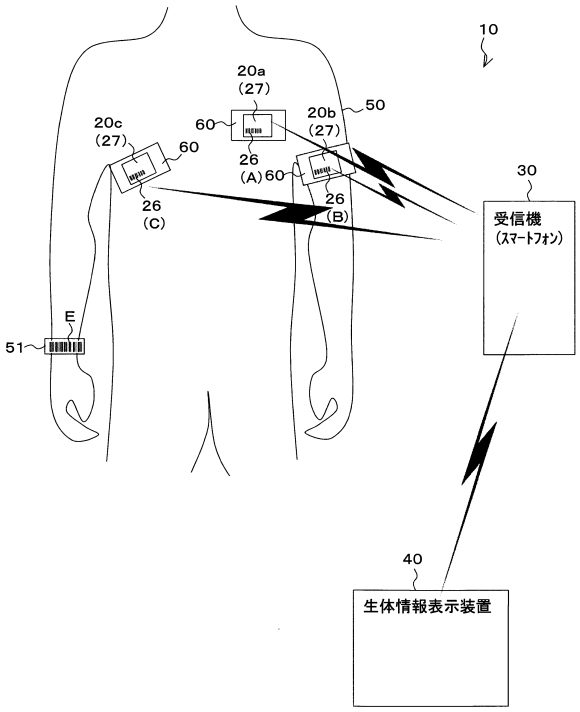
また、上記実施形態では、識別情報入力部３１として、バーコードＡ～Ｃ等を光学的に読み取る手段（例えば、ＣＣＤ等のカメラ）を用いた例について説明したが、これに限らない。例えば、識別情報入力部３１として、看護師等がセンサ識別情報や患者識別情報を手入力するキーバッド等の他の入力部を用いてもよい。

【００９６】

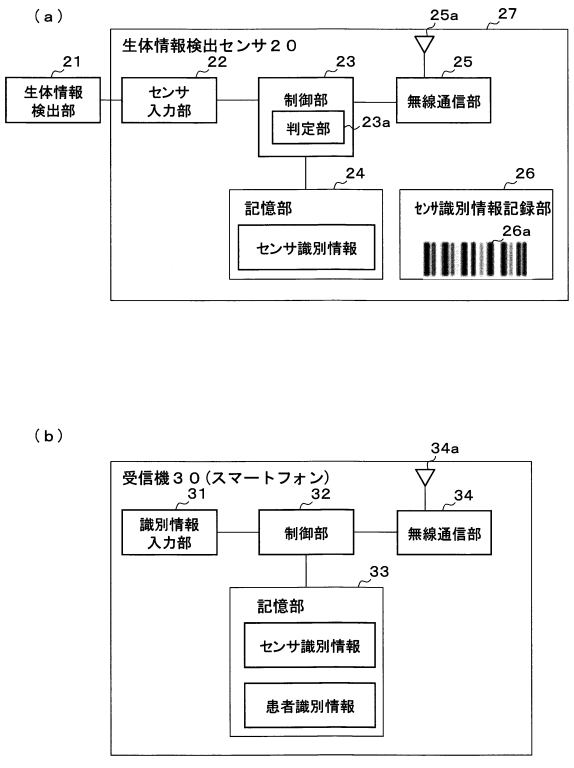
なお、ステップＳ２０(図３参照)での第１紐付け情報の送信は、例えば、最後の患者５０に装着された生体情報検出センサ２０ａ～２０ｃそれぞれのセンサ識別情報記録部２６に記録されたバーコードＡ～Ｃを読み取り、当該最後の患者５０に装着されたリストバンド５１に記録されたバーコードＥを読み取った後に、受信機３０に対して所定の操作をすることで実行するようにしてもよい。所定の操作は、図示しないが、例えば、受信機３０に設けられた送信ボタン(又は受信機３０が備えるディスプレイに表示される送信ボタン)の操作である。同様に、ステップＳ２０Ａ(図１２参照)での第３紐付け情報の送信は、例えば、最後の患者５０に装着された生体情報検出センサ２０ａ～２０ｃそれぞれのセンサ識別情報記録部２６に記録されたバーコードＡ～Ｃを読み取り、当該最後の患者５０に装着されたリストバンド５１に記録されたバーコードＥを読み取り、これらの読み取り作業を行った看護師（又はその他の医療従事者）に装着された名札等に記録されたバーコードＦを読み取った後に、受信機３０に対して所定の操作をすることで実行するようにしてもよい。

【００９７】
上記実施形態で示した各数値は全て例示であり、これと異なる適宜の数値を用いることができるのは無論である。
【００９８】
上記実施形態はあらゆる点で単なる例示にすぎない。上記実施形態の記載によって本発明は限定的に解釈されるものではない。本発明はその精神または主要な特徴から逸脱することなく他の様々な形で実施することができる。
【符号の説明】
【００９９】
１０…医用テレメータシステム、２０（２０ａ$_1$～２０ｃ$_1$、２０ａ$_2$～２０ｃ$_2$、２０ａ$_3$～２０ｃ$_3$）…生体情報検出センサ、２１…生体情報検出部、２２…センサ入力部、２３…制御部、２３ａ…判定部、２４…記憶部、２５…無線通信部、２５ａ…アンテナ、２６…センサ識別情報記録部、２７…筐体、３０…受信機、３１…識別情報入力部、３２…制御部、３３…記憶部、３４…無線通信部、３４ａ…アンテナ、４０…生体情報表示装置、５０、５０Ａ～５０Ｃ…患者、５１、５１Ａ～５１Ｃ…リストバンド、６０…パッド

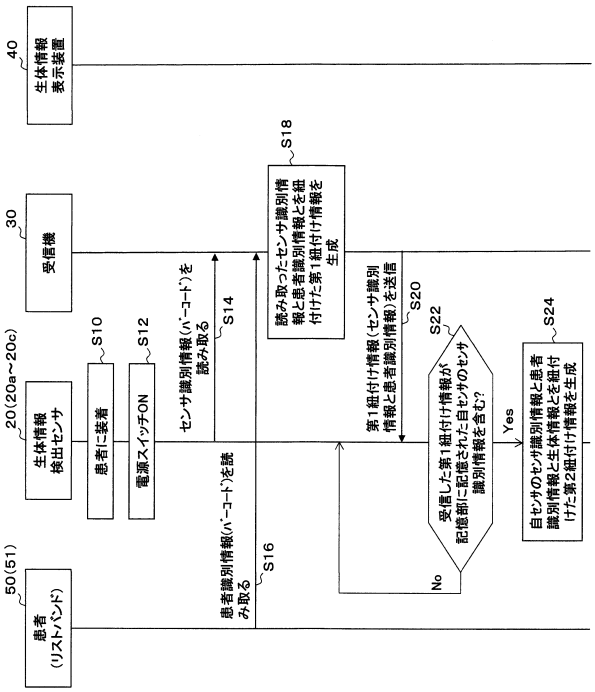
【図１】



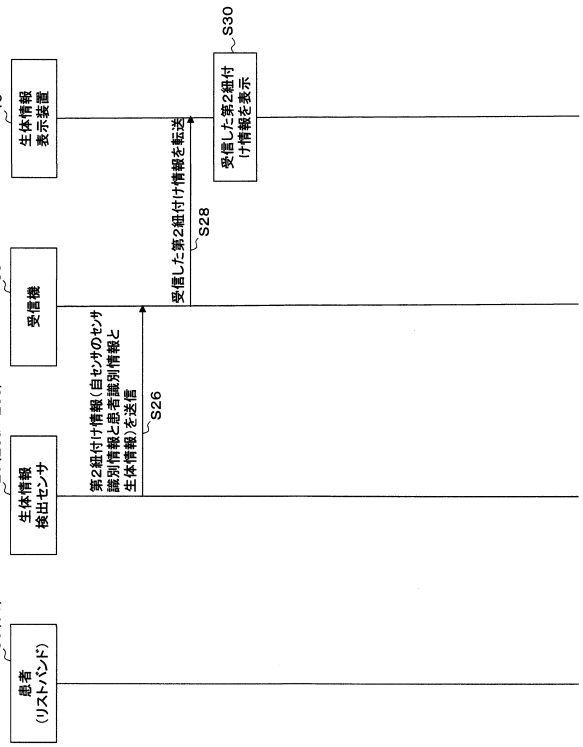
【図２】



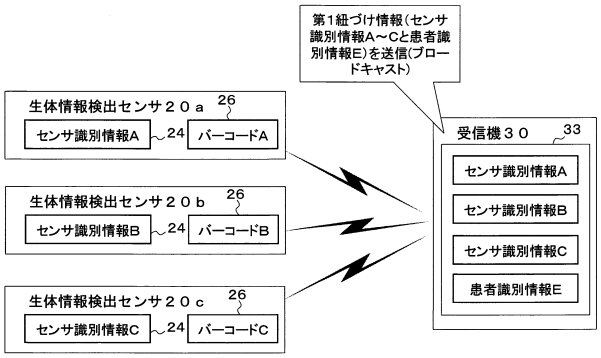
【図３】


40
生体情報表示装置
30
受信機
20(20a～20c)
生体情報検出センサ
50(51)
患者(リストバンド)
S10
患者に装着
S12
電源スイッチON
センサ識別情報(バーコード)を読み取る
S14
患者識別情報(バーコード)を読み取る
S16
読み取ったセンサ識別情報と患者識別情報とを紐付けた第1紐付け情報を生成
S18
第1紐付け情報(センサ識別情報と患者識別情報)を送信
S20
受信した第1紐付け情報が記憶部に記憶された自センサのセンサ識別情報を含む?
S22
Yes
No
自センサのセンサ識別情報と患者識別情報と生体情報とを紐付けた第2紐付け情報を生成
S24

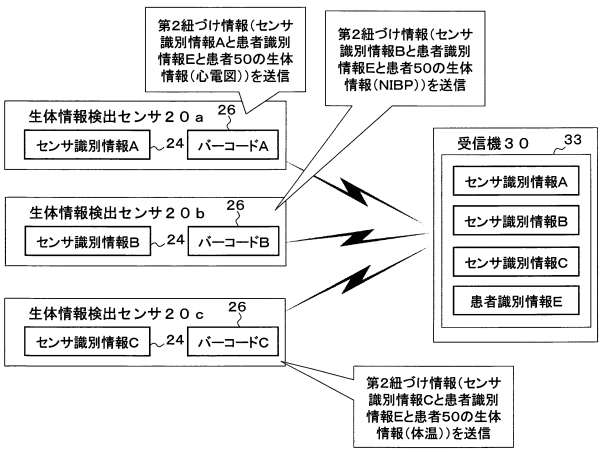
【図４】


40
生体情報表示装置
30
受信機
20(20a～20c)
生体情報検出センサ
50(51)
患者(リストバンド)
第2紐付け情報(自センサのセンサ識別情報と患者識別情報と生体情報)を送信
S26
受信した第2紐付け情報を転送
S28
受信した第2紐付け情報を表示
S30

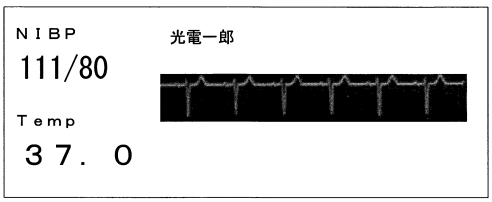
【図５】


第1紐づけ情報(センサ識別情報A～Cと患者識別情報E)を送信(ブロードキャスト)
生体情報検出センサ２０ａ
26
センサ識別情報A
24
バーコードA
生体情報検出センサ２０ｂ
センサ識別情報B
バーコードB
生体情報検出センサ２０ｃ
センサ識別情報C
バーコードC
受信機３０
33
センサ識別情報A
センサ識別情報B
センサ識別情報C
患者識別情報E

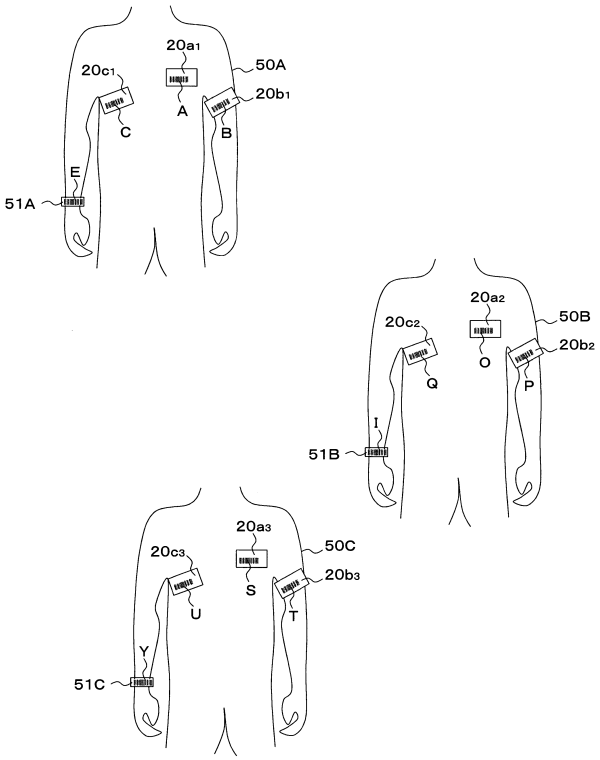
【図６】


第2紐づけ情報(センサ識別情報Aと患者識別情報Eと患者50の生体情報(心電図))を送信
第2紐づけ情報(センサ識別情報Bと患者識別情報Eと患者50の生体情報(NIBP))を送信
生体情報検出センサ２０ａ
26
センサ識別情報A
24
バーコードA
生体情報検出センサ２０ｂ
センサ識別情報B
バーコードB
生体情報検出センサ２０ｃ
センサ識別情報C
バーコードC
受信機３０
33
センサ識別情報A
センサ識別情報B
センサ識別情報C
患者識別情報E
第2紐づけ情報(センサ識別情報Cと患者識別情報Eと患者50の生体情報(体温))を送信

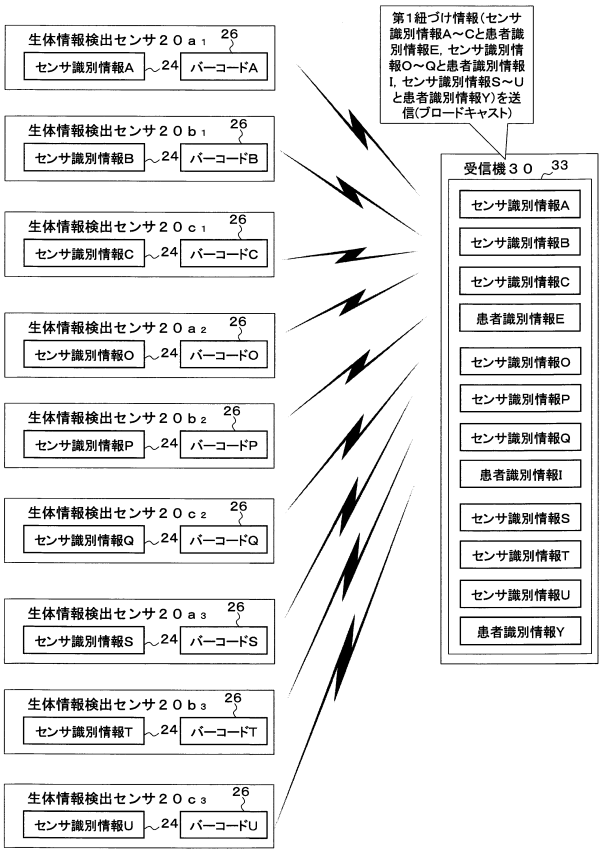
【図７】


ＮＩＢＰ
111/80
Ｔｅｍｐ
３７．０
光電一郎

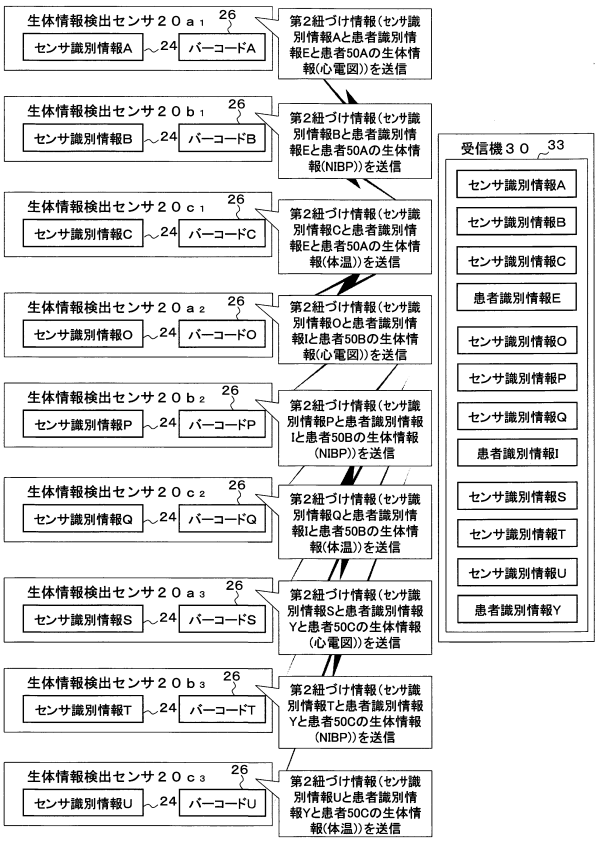
【図８】


20a1
20c1
50A
20b1
A
B
C
E
51A
20a2
20c2
50B
20b2
O
Q
P
I
51B
20a3
20c3
50C
20b3
S
U
T
Y
51C

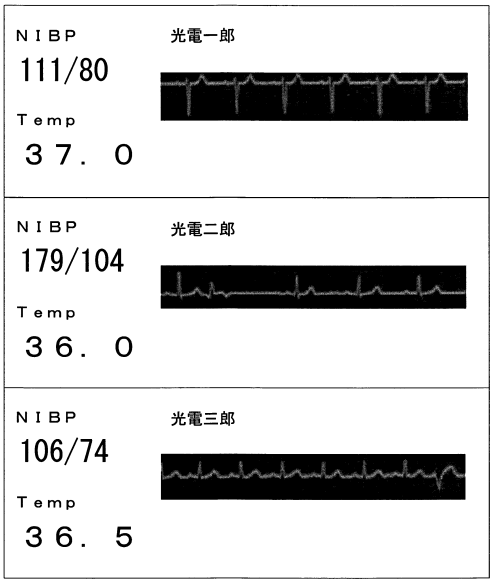
【図９】


生体情報検出センサ２０a１ 26
センサ識別情報A ～24 バーコードA
生体情報検出センサ２０b１ 26
センサ識別情報B ～24 バーコードB
生体情報検出センサ２０c１ 26
センサ識別情報C ～24 バーコードC
生体情報検出センサ２０a２ 26
センサ識別情報O ～24 バーコードO
生体情報検出センサ２０b２ 26
センサ識別情報P ～24 バーコードP
生体情報検出センサ２０c２ 26
センサ識別情報Q ～24 バーコードQ
生体情報検出センサ２０a３ 26
センサ識別情報S ～24 バーコードS
生体情報検出センサ２０b３ 26
センサ識別情報T ～24 バーコードT
生体情報検出センサ２０c３ 26
センサ識別情報U ～24 バーコードU
第1紐づけ情報（センサ識別情報A～Cと患者識別情報E，センサ識別情報O～Qと患者識別情報I，センサ識別情報S～Uと患者識別情報Y）を送信（ブロードキャスト）
受信機３０ 33
センサ識別情報A
センサ識別情報B
センサ識別情報C
患者識別情報E
センサ識別情報O
センサ識別情報P
センサ識別情報Q
患者識別情報I
センサ識別情報S
センサ識別情報T
センサ識別情報U
患者識別情報Y

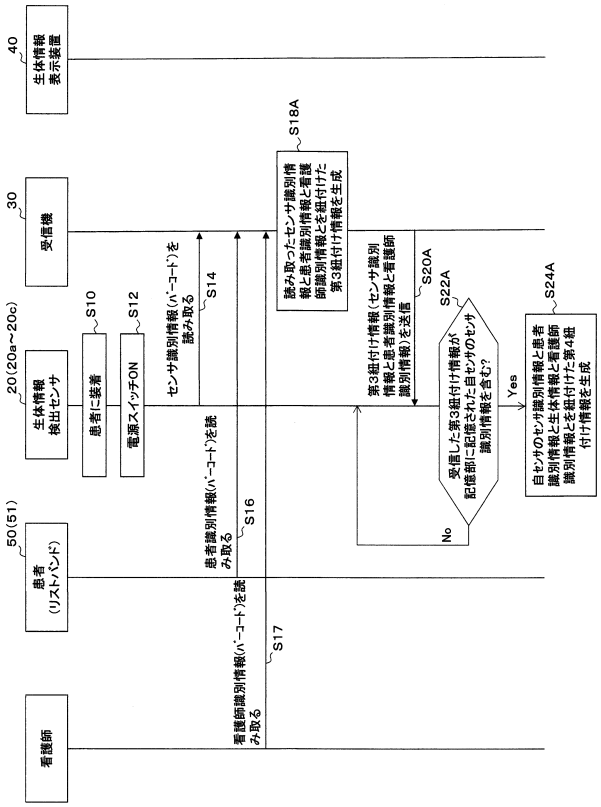
【図１０】


生体情報検出センサ２０a１ 26
センサ識別情報A ～24 バーコードA
第2紐づけ情報（センサ識別情報Aと患者識別情報Eと患者50Aの生体情報(心電図)）を送信
生体情報検出センサ２０b１ 26
センサ識別情報B ～24 バーコードB
第2紐づけ情報（センサ識別情報Bと患者識別情報Eと患者50Aの生体情報(NIBP)）を送信
生体情報検出センサ２０c１ 26
センサ識別情報C ～24 バーコードC
第2紐づけ情報（センサ識別情報Cと患者識別情報Eと患者50Aの生体情報(体温)）を送信
生体情報検出センサ２０a２ 26
センサ識別情報O ～24 バーコードO
第2紐づけ情報（センサ識別情報Oと患者識別情報Iと患者50Bの生体情報(心電図)）を送信
生体情報検出センサ２０b２ 26
センサ識別情報P ～24 バーコードP
第2紐づけ情報（センサ識別情報Pと患者識別情報Iと患者50Bの生体情報(NIBP)）を送信
生体情報検出センサ２０c２ 26
センサ識別情報Q ～24 バーコードQ
第2紐づけ情報（センサ識別情報Qと患者識別情報Iと患者50Bの生体情報(体温)）を送信
生体情報検出センサ２０a３ 26
センサ識別情報S ～24 バーコードS
第2紐づけ情報（センサ識別情報Sと患者識別情報Yと患者50Cの生体情報(心電図)）を送信
生体情報検出センサ２０b３ 26
センサ識別情報T ～24 バーコードT
第2紐づけ情報（センサ識別情報Tと患者識別情報Yと患者50Cの生体情報(NIBP)）を送信
生体情報検出センサ２０c３ 26
センサ識別情報U ～24 バーコードU
第2紐づけ情報（センサ識別情報Uと患者識別情報Yと患者50Cの生体情報(体温)）を送信
受信機３０ 33
センサ識別情報A
センサ識別情報B
センサ識別情報C
患者識別情報E
センサ識別情報O
センサ識別情報P
センサ識別情報Q
患者識別情報I
センサ識別情報S
センサ識別情報T
センサ識別情報U
患者識別情報Y

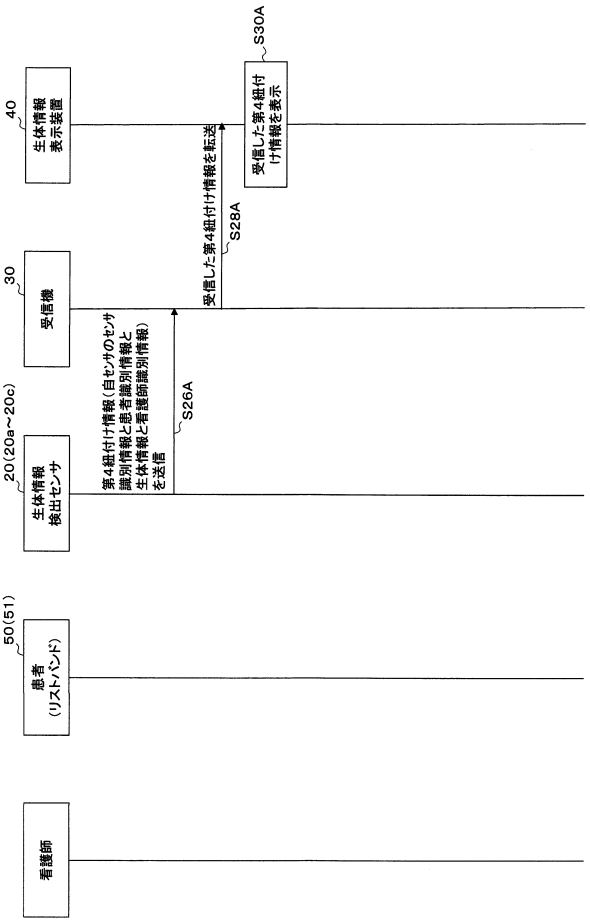
【図１１】


ＮＩＢＰ
111/80
Ｔｅｍｐ
３７．０
光電一郎
ＮＩＢＰ
179/104
Ｔｅｍｐ
３６．０
光電二郎
ＮＩＢＰ
106/74
Ｔｅｍｐ
３６．５
光電三郎

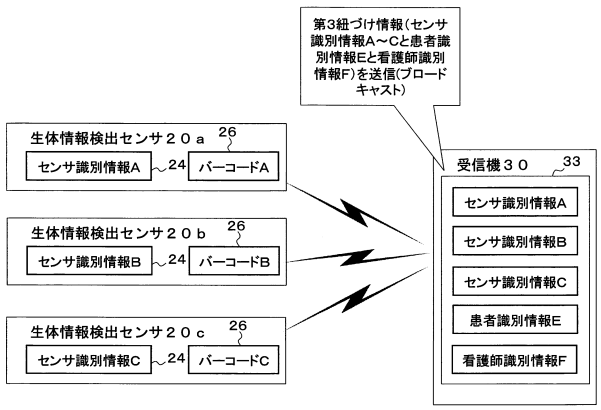
【図１２】



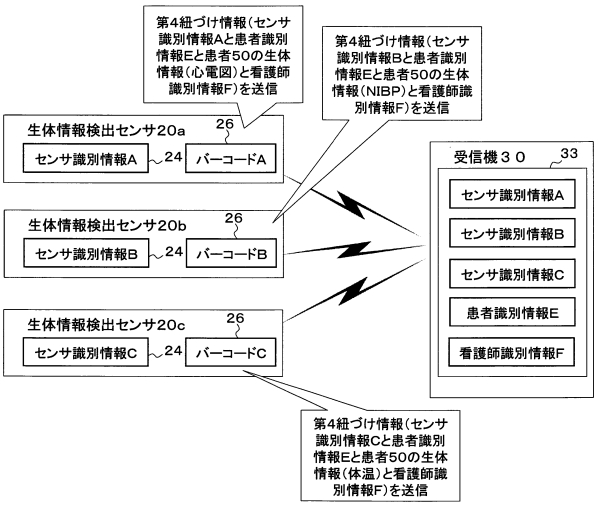
【図１３】



【図１４】



【図１５】



フロントページの続き

(72)発明者　細井　みのり
東京都新宿区西落合１丁目３１番４号　日本光電工業株式会社内

審査官　右▲高▼　孝幸

(56)参考文献　特開２０１３－１５６９１９（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ６１Ｂ　　５／００
Ａ６１Ｂ　　５／２４
Ａ６１Ｂ　　５／３３２